

都市を目指して 空間を創造

快適な

生活環境都市づくり

前号より実施計画を紹介しています。これは、今後の市政運営において生じる行政需要、課題に添えていくため、中、長期的な展望に立つて、昭和六十三年度から六十五年度までの三カ年計画として策定したものです。

前回は、市政の土台的な面として「市発展の基礎づくり」を紹介しました。今回は、市民生活に密接な部分である生活環境を取り上げた「快適な生活環境都市づくり」を紹介します。

住宅

すべての市民が豊かな緑の空間のなかで、快適な生活を送るために、公共施設の充実と公的住宅の建設、持ち家住宅を推進、住宅の質的水準を高めて市民生活の安定と社会福祉の増進を図ります。

公的住宅については、住宅の供給状況を検討しながら市営住宅の計画的建設と県営住宅の誘致を促進。既設の市営住宅は、老朽化のうえ狭いため、中央団地三十六戸を昭和六十五年度中に五十六戸に建て替え、改善に取り組みます。

市営住宅の管理については、客観的な社会状況を省みて家賃を見直して、適正に行うよう検討。

また、住宅金融公庫など、各種

生活用水

本市における生活用水は、すべて地下伏流水に依存しており、十二カ所の水源で各地区別に揚水を行っています。現在の状態は良好ですが、これは経済の低迷と普及

の融資制度の拡充を要請、持ち家政策を推進します。

住環境の整備としては、地域の特性、課題をふまえ、小集落地区改良事業や土地区画整理事業、民間活力を生かした再開発事業や開発指導によって、公共施設、生活利便施設等の整備改善を促進し、快適な住環境づくりに努めています。



十市パークタウン

下水道

昭和七十年を目標とする浦戸湾東部流域下水道計画に基づき、汚水の完全処理、河川の水質汚濁防止、浸水の排除等を目指して流域下水道の整備を推進。それとともに十市パークタウンは土地区画整備事業にあわせて一体的に下水道整備を進めて、住みよい衛生的な生活環境を形成するとともに、市民生活の質的向上を図ります。

浦戸湾に流入している国分川、舟入川、下田川の水質汚濁防止と浦戸湾の水質保全を目的に進められている浦戸湾東部流域下水道計画については、関係機関と協力して促進を図ります。本市における計画区域面積は八七五〇(そのうち認可区域は一四八〇)計画人口三万三千五百六十人、計画汚水量は一日当たり二六、五〇六立方メートルです。そのなかの中心市街地のうち一四八〇(篠原、大坪、野中前

住みよい環境 みどり豊かな

実施計画

生活環境

快適な環境を保持するため、ごみの収集体制の整備、ごみ処理施設の整備拡充、不燃物処理場の施設能力強化などを図っていきます。

収集体制の整備として、交通事情や生活環境の変化に対応しながら、収集地域の見直し、収集車両の機能充実などにより収集効率の向上を図るとともに、美化運動を推進して、清潔な環境づくりを行っていきます。

処理体制については、今後人口増、都市発展によるごみ処理量の増加、消費生活の変化に伴うゴミの高カロリー化など、量と質の変化に備え、現施設の耐用年数を考えて六十四年度から可燃物処理場の改修にかかり、施設の保全に努めます。また、ごみの減量、資源化をさらに進めるため、市民とともにごみ減量運動を推進。

不燃物については、現在千屋崎理め立て地に対応していますが、現用地では六十四年度末に埋め立て限界に達し、不燃物処分が不可能な事態となります。このため早急に事業に着手することが必要であり、関係住民等のじゅうぶんな理解と協力を得ながら、六十三年度全体計画策定、六十四年度事業着手、六十六年度末竣工の計画で新処理場の整備を図っていきます。

し尿処理対策についても、昭和六十二年以来整備中の黒滝し尿処理施設は同年九月本格的運転を開始しましたが、一日二〇〇トの放流水の長期安定処理に不安があります。



吾岡山

公園

都市化が進展するなか、国土の保全や自然保護のため、乱開発を防止し、ゆとりある生活空間を創出するには、公園の整備が不可欠です。

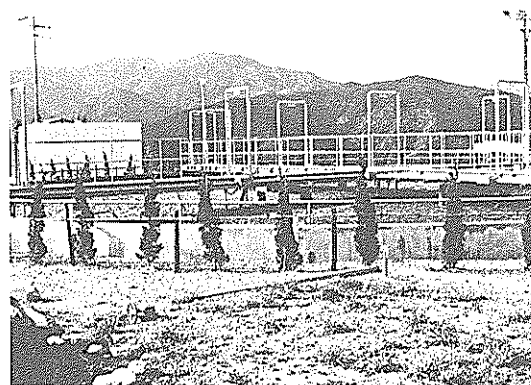
しかし、公園整備状況は、国の定めた公園整備の基準目標一人当たり六平方メートルには、ほど遠い状況です。そこで都市公園として、国庫補助金を導入して、十市パークタウン近隣公園(土地区画整理事業により六十五年度完成目標)と吾岡山公園を整備し、安らぎの場所を作っていきます。

消防

地域と連携し、防火意識の啓発や、消防・消防訓練などを計画的に行うとともに、自衛消防団の育成、組織の強化や企業等の防火管理者の養成などにより、火災予防活動を推進します。

消防体制としては、最近の消防事情に対応するための専門知識、技術の習得に努めるとともに設備を整備、増強。また、消防通信指令システムを活用し、機能的な消防力の整備に努めます。

さらに、救急・救助出動、交通事故の増加に対応できる体制の確立も図っていきます。



黒滝し尿処理施設